

## 【考査方法、考査基準に対する特別措置への留意点】

### ① 柔軟な対応

スカウトの置かれている環境に合わせ、活動の方法、考査の方法を柔軟に設定する。  
野外での実施や対面での実施が必要なものは後日の挑戦を前提に承認し、進歩を進める。

### ② 活動を通しての進歩

単に課題を出すのではなく、進歩課目に興味尾抱き、制限された環境下で出来る活動の実行を伴った進歩への取組み（プログラム）を提供する。

### ③ パトロールシステムの活用

活動の制限、スカウト環境、地域状況に合わせ、可能な限り部門に合わせたパトロールシステムを活用して進歩を進める。

### ④ 基準の維持

スカウトが特別に低い基準で修得したと認識しないよう、課目への挑戦の意義や成果、ちかとおきての実践等を評価して、困難な状況下で取得したことに對して誇りをもった進歩になるよう最大限の配慮をする。

### ⑤ 活動の制限の緩和や地域における状況により、順次、特別の考査基準及び考査方法を見直し、または、通常の考査基準及び考査方法に戻す。

日本連盟「新型コロナウイルス対応における進歩に関する特別措置（案）」より

つまり・・・

★ 各進歩課目が、設定されている「ねらい」を指導者が理解し、スカウトがそのねらいに到達できるよう、別の手法を用いて支援し、導く事が重要。

★ 進歩課目の趣旨を指導者が理解し、「回り道」となる活動やアイデアを示す事でスカウトとしての成長をいかに導くか！？

★ 集会が出来なくても、指導者⇔スカウトのやり取りだけでなく、スカウトが班長へ進歩課目の取組みについて相談をしたり、班長がスカウトの進歩の状況を把握出来たり、班長⇔スカウトのコミュニケーションが取れるよう、指導者として支援が必要。

こちらの特別措置案については、新型コロナウイルスにおける自粛期間の対応だけでなく、思うように活動が出来ない場合（個人や家庭の事情、スカウトの数が少ない等）に対しても進歩課目への取組みにおける考え方を示したものであり、柔軟にご対応下さい。



【**考査方法、考査基準に対する特別措置案 <初級章>**】

		初級スカウト章「仲間」	考査基準に対する特別措置案	特別措置へのポイント
目標		初心者として、ハイキングやキャンプで自分のことが自分でできるようになる。		活動に参加出来なくても、自宅で出来る活動への参加に向けた準備を知り、実際に取り組ませる
基本		(1)「ちかい」と「おきて」が言える。そのうえで、隊長と話し合う。 (2)「スカウト章」「モットー」「スローガン」の意味を説明できる。 (3)日本の国旗の正しい様式を知り、集会で掲揚柱に掲揚する。  (4)「連盟歌」が歌える。 (5)普段の集会で必要なもの（訓練用具）を知り、携行する。 (6)スカウトサイン、敬礼、スカウトの握手ができる。	(3)日本の国旗の正しい様式を知り、集会で掲揚柱に掲揚する。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により集会の実施が不可能な場合は、掲揚方法を理解する。	「カブスカウトのやくそく」、「カブスカウト隊のさだめ」が「ちかい」と「おきて」につながっていることに気づかせ、これからの行動、態度、心構えについて、具体的なイメージを持たせる。
健康と発達		(1)体温と脈拍を正しく測ることができる。		自分自身の健康維持、体調管理が班での責任を果たす第一歩。
スカウト技能	計測	(1)自分の体や身近にあるものを用いて簡単な計測を行う。		
	スカウト技能	(2)集会で使う身ぶり信号（気をつけ、休め、すわれ、分かれと集合隊形の各種サイン）、笛の合図を覚える。		
	ロープ結び	(3)ロープ結び ①次のロープ結びの使いみちを理解し、実際に使う。 ア) 本結び イ) 一重つぎ ウ) ふた結び エ) もやい結び オ) 8の字結び		スカウト技能に興味と関心を持たせる。スマートネス、規律を体感させる。メンバーが協力しながら積極的に活動に関わるよう動機づけを行う。
善行（初級）/ 奉仕	(1)集会などで行う社会奉仕活動へ積極的に参加する。	(1)集会などで行う社会奉仕活動へ積極的に参加する。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により実施が不可能な場合は、自発的に他人・社会に奉仕する活動とは何かを隊長と話し合う。	※活動を通して、自分達が参加できる社会奉仕活動とはどのようなものがあるのかを示し、今後前向きに取り組めるよう支援する。地域でのボランティア活動や、奉仕活動を体験し、他の人の役に立つこと、「ちかい」と「おきて」の実践につながることに気づかせる。	
信仰奨励/信仰（隼・富士）	(1)隊集会やキャンプ、ハイキングでスカウトタウン・サービスに参加する。	(1)隊集会やキャンプ、ハイキングでスカウトタウン・サービスに参加する。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により集会の実施が不可能な場合は、「ちかい」と「おきて」をどのように実践できるかを考え、隊長と話し合う。	※スカウトタウン・サービスが何であるのか？を説明し、スカウトの「ちかい」と「おきて」をスカウト自身が知り、どう日常生活を送るのかを考えさせる 自然の恩恵や身の回りの方々への感謝の気持ちを育て、信仰心が芽生えるきっかけを作る。	
班長会議/成長と貢献（隼・富士）	(1)初級スカウトとして進級することを、班長会議で認めてもらう。	(1)初級スカウトとして進級することを、班長会議で認めてもらう。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により集会の回数が少ない場合は、活動への参加に向けた準備内容を班長が確認し、班長会議で認めてもらう。	活動への参加に向けた取り組み内容を、隊長だけでなく班長が知り、班長がスカウトへの支援を行うことで、班長とのコミュニケーションを構築させ、今後の活動への参画に繋げる。 ボーイスカウトでは、自発的に履修した課目について班長や隊長の考査を受けた後、進級する仕組みを理解させる。	

【**考査方法、考査基準に対する特別措置案 <2級章>**】

	2級スカウト章「ハイキング」	考査基準に対する特別措置案	特別措置へのポイント
目標	班の中心として、ハイキングの計画・実施・報告ができるとともに、初級スカウトの指導ができる。		ハイキングの実施に向け、必要とする準備や計画立案方法を知り実践ができる。初級スカウトへの指導ができる。
基本	(1)「ちかい」と「おきて」について意味を説明でき、その実践に努力していることを隊長に認めてもらう。 (2)日本の国旗の意味、歴史、仕様を説明でき、班や隊の活動で国旗を正しく掲揚できる。  (3)外国旗およびその国のスカウト章を 5 か国以上見分ける。	(2)日本の国旗の意味、歴史、仕様を説明でき、班や隊の活動で国旗を正しく掲揚できる。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により集会の実施が不可能な場合は、正しく掲揚する方法を理解する。	
健康と発達	(1)体温、脈拍と体調との関係について説明する。 (2)救急法 ①日常遭遇しやすい次のような場合の応急手当や対応を説明できる。 ア)鼻血 イ)目のちり ウ)やけど エ)指の切り傷 オ)立ちくらみ カ)頭痛 キ)蜂、ダニ、毛虫などの虫さされ ク)熱中症 ②三角巾で他の人の頭、手、ひざ、足に包帯を巻き、腕を吊る方法を実演する。 (3)隊または班の安全係を 3 か月以上担当する。	(3)隊または班の安全係を 3 か月以上担当する。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により集会の実施が不可能な場合は、隊または班における「安全係」の役務内容を考え、隊長に報告する。	
ハイキング 読図	(1)ハイキング・読図 ①16 方位と方位角の呼び方を覚え、コンパスで進路を発見する。 ②2 万 5 千分の 1 地形図を用いて次のことをする。 ア) 図上に示された 2 つの地点の間の方位角、直線距離、標高差、道路に沿った歩行距離を読む。 イ) 真北と磁北の違いを説明する。 ウ) 500m(または 1km)ごとの方眼を正確に書き入れた地形図により、6 桁(またはは 8 桁)座標読みを行い、示された地点に到達する。 ③三角点、水準点、標高点、等高線とは何かを知り、三角点または水準点の標石を発見する。 ④10 個以上の地形図記号を覚える。 ⑤コンパスを用い、バックベアリングができる。 ⑥地図とコンパスを用いた 10km 程度のハイキングを計画し、隊長の指名する 2 級以上のスカウト（但し、適任者がいない場合はベンチャースカウトも可）とともに、保護者の同意のもと実施し、報告する。このハイキングは、1.基本(1)および 6.班長会議(1)以外の課目を終了した後に、仕上げの課目として行う。	⑥地図とコンパスを用いた 10km 程度のハイキングを計画し、隊長の指名する 2 級以上のスカウト（但し、適任者がいない場合はベンチャースカウトも可）とともに、保護者の同意のもと実施し、報告する。このハイキングは、1.基本(1)および 6.班長会議(1)以外の課目を終了した後に、仕上げの課目として行う。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により実施が不可能な場合は、後日必ず実施と報告書を提出することを約束し、実施までの間に、計画実行に向けて研鑽・努力する課題を設定し隊長に報告する。	
	(2)キャンピング ①次の野外料理を作る。 ア) 複数人数分の米飯および味噌汁 イ) 複数人数分の野菜、肉、魚、玉子を材料とした 2 種類以上の料理	(2)キャンピング ①次の野外料理を作る。 ア) 複数人数分の米飯および味噌汁 イ) 複数人数分の野菜、肉、魚、玉子を材料とした 2 種類以上の料理	※家庭において、保護者の協力を得ながら自分でできるメニューを考え、自分で複数人の料理を作ることができる事に挑戦をさせる。

【**考査方法、考査基準に対する特別措置案 <2級章>**】

		2級スカウト章「ハイキング」	考査基準に対する特別措置案	特別措置へのポイント
スカウト技能	キャンピング	②かま、なた、のこぎりを安全に使用でき、手入れと保管ができる。  ③火口、焚き木、薪を作り、マッチ2本で火を起こし、500mlの水を沸騰させる。	ただし、外出や活動の制限、自粛等により集会の実施が不可能な場合は、自宅で家族分の調理を行い、写真を撮って隊長へ報告する。 ②かま、なた、のこぎりを安全に使用でき、手入れと保管ができる。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により集会の実施が不可能な場合は、かま、なた、のこぎりを安全に使用する方法と手入れ、保管方法を学び隊長へ報告する。 ③火口、焚き木、薪を作り、マッチ2本で火を起こし、500mlの水を沸騰させる。ただし、外出や活動の制限、自粛等により集会の実施が不可能な場合は、薪の種類による火の燃え方の違いを調べ、隊長へ報告する。	
	ロープ結び	(3)ロープ結び ①次のロープ結びの使いみちを理解し、実際に使う。 ア)巻き結び イ)ねじ結び ウ)引きとけ結び エ)ちぢめ結び オ)腰掛け結び カ)てぐす結び キ)てこ結び ク)張り綱結び		
	観察	(4)観察 ①食用植物、有害植物をそれぞれ2種以上見分ける。 ②24個の小さな物を1分間観察し、そのうちの16個以上を記憶によって答える。		
	計測	(5)計測 ①100mの距離を誤差5%以内で歩測する。 ②スカウトベースで2kmを15分で移動する。 ③はかりや計量器を使わずに、1合の米、1ℓの水を15%以内の誤差で量る。		
	通信	(6)通信 ①片かな手旗信号で15の原画を理解し、10文字程度の語句を発信、受信できる。 ②追跡記号を10種以上覚える。		
善行（初級）/奉仕		(1)デンコーチとして3か月以上の奉仕、または社会奉仕活動を3回以上奉仕する。	(1)デンコーチとして3か月以上の奉仕、または社会奉仕活動を3回以上奉仕する。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により実施が不可能な場合は、班活動で出来る社会奉仕活動を班長（次長）と一緒に検討し、後日の実施に向けて計画を立て、班会議で報告する。	
信仰奨励/信仰（隼・富士）		(1)スカウトタウン・サービスで自分ができる役割を果たし、「ちかい」と「おきて」を日常で実践したこと、実践により感じたことを発表する。	(1)スカウトタウン・サービスで自分ができる役割を果たし、「ちかい」と「おきて」を日常で実践したこと、実践により感じたことを発表する。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により実施が不可能な場合は、「ちかい」と「おきて」を日常で実践したこと、実践により感じたことを家族に聞いてもらう。	
班長会議/成長と貢献（隼・富士）		(1)初級スカウトとして3か月以上、隊および班活動に進んで参加したことを班長会議で認めてもらう。		

【**考査方法、考査基準に対する特別措置案 <1級章>**】

	1級スカウト章「キャンピング」	考査基準に対する特別措置案	特別措置へのポイント	
目標	ボーイスカウト活動の中心として、スカウトキャンプの計画・実施・報告ができスカウト技能全般を単独で実施できる。		スカウト技能全般を単独で実施できる。	
基本	(1)「ちかい」と「おきて」の実践に努力していることを日常生活で示す。 (2)姉妹都市または自分が興味を持っている2か国の民族、文化、通貨、言語を調べ、隊または班集会で話す。 (3)日本の国旗と外国旗を併用して掲揚および設置する時の注意事項を知る。 (4)半旗の意味と正しい掲揚の方法を知る。			
健康と発達	(1)50m 泳ぐか 1,000m を走り、自己記録を更新できるように努力する。 (2)水分や食物の補給が体調に与える影響を知り、体調を管理するための準備ができる。 (3)救急法 ①班員1人と協力して急造担架を作り、実際に人を運ぶ。  ②直接圧迫止血法と間接圧迫止血法の違いを知り、直接圧迫止血法による応急処置ができる。	(3)救急法 ①班員1人と協力して急造担架を作り、実際に人を運ぶ。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により実施が不可能な場合は、家族の協力を得て、1人で毛布・シーツ等を利用した搬送法を実際に行う。		
スカウト	キャンピング	(1)キャンピング ①班の炊事係として、2泊3日以上のキャンプの調理を担当する。  ②自然物（石、木、竹等）を用いた、キャンプに役立つ工作を1つ以上作成する。 ③マッチの防水加工を施し、携帯用の防水容器に入れて提出すること。 ④連続5泊以上の隊キャンプか、自団の隊または班で参加できる地区、県連盟、日本連盟のキャンプ大会に参加する。  ⑤キャンプにおける用便、ゴミ処理ならびに食料保管について、衛生上注意する点を知り、実践できる。 ⑥1級旅行（1泊24時間以上のハイキング）の計画書を作成し、必要な個人装備を携行して隊長の指名するベンチャースカウト（但し適任者がいない場合は1級以上のスカウト）とともに、隊長より与えられた課題と方法によりキャンプを行い、報告する。 このキャンプは、1.基本(1)および6.班長会議(1)以外の課目を終了した後に、仕上げの課目として行う。	(1)キャンピング ①班の炊事係として、2泊3日以上のキャンプの調理を担当する。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により野外活動の実施が不可能な場合は、班の炊事係として、栄養バランスを考えた夏季キャンプ（2泊3日）の献立を考え、複数人の料理4種を自宅で作り、写真に撮って隊長へ報告する。  ⑥1級旅行（1泊24時間以上のハイキング）の計画書を作成し、必要な個人装備を携行して隊長の指名するベンチャースカウト（但し適任者がいない場合は1級以上のスカウト）とともに、隊長より与えられた課題と方法によりキャンプを行い、報告する。 このキャンプは、1.基本(1)および6.班長会議(1)以外の課目を終了した後に、仕上げの課目として行う。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により野外活動の実施が不可能な場合、後日必ず実施と報告書を提出することを約束し、実施までの間に、計画実行に向けて研鑽・努力する課題を設定し隊長に報告する。	※連続5日以上のキャンプを通して、スカウトはどのように変化をするのか？を考え、その変化を遂げる事が出来る形を検討する。 ※メンタル面、スキル面において5泊のキャンプに相当した成長が見られると隊長が判断した場合、認定しても良い。  ※1級章取得に向けた重要な項目になるので、必ず取り組ませること。
	ハイキング <small>読図</small>	(2)ハイキング・読図 ①日中、夜間においてコンパスを用いずに方位を2種類の方法で発見する。 ②300m以上の距離に追跡記号を設置し班員を誘導する。		

【**考查方法、考查基準に対する特別措置案 <1級章>**】

		1 級スカウト章「キャンピング」	考查基準に対する特別措置案	特別措置へのポイント
ト 技 能		③クロスヘアリングの手法を用い、地形図上で現在地を発見する。		
	ロープ結び	(3)ロープ結び ①次のロープ結びの使いみちを理解し、実際に使う。 ア) 垣根結び イ) よろい結び ウ) バタフライノット エ) 馬つなぎ オ) からみ止め カ) バックスプライス キ) 角しばり ク) はさみしばり ケ) 筋かいしばり		
	観察	(4)観察 ①樹木 5 種類以上をスケッチまたは写真で記録し、特徴を述べる。 ②北極星の発見方法を知り、北極星を発見できる。また、5 つの 星座を発見できる。 ③身近にいる動物（ほ乳類・鳥類・魚類など）について観察し、報告する。		
	計測	(5)計測 ①自作の簡易測量器具を用いて、樹木などの高さを誤差 10%以内で測る。 ②簡易測量法を用い、到達できない 2 点間の距離（長さ、高さ）を 誤差 10%以内で測る。 ③ハイキングで野帳をつけ、またその野帳によって略地図を作る。	③ハイキングで野帳をつけ、またその野帳によって略地図を作る。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により実施が不可能な場合は、 コンパスと歩測を用いて自宅周辺の略地図を作る。	
	通信	(6)通信 ①片かな手旗信号で 20 文字以上の文章を発信、受信できる。 ②号笛を使って野外でできる簡単な通信ゲームを考え実施する か、号笛を使用した救難信号を覚える。		
	技能章	(7)技能章から、「ハイキング章」「スカウトソング章」を取得する。		
善行（初級）/ 奉仕	(1)班での奉仕活動を計画し、隊長の承認を得て実施、報告する。  (2)自分の住んでいる地域の 3 つ以上の施設への案内ができる。	(1)班での奉仕活動を計画し、隊長の承認を得て実施、報告する。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により奉仕活動の実施が不可能な 場合は、SDGsの達成目標から1つ選び、目標達成の為に自分ができる 社会奉仕に取り組む。		
信仰奨励/信仰 （隼・富士）	(1)隊集会やキャンピング、ハイキングでのスカウトタウン・サービスで 主要な役割を果たす。	(1)隊集会やキャンピング、ハイキングでのスカウトタウン・サービスで 主要な役割を果たす。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により実施が不可能な場合は、 アンノンスカウト物語を読み、隊長とその内容について話しをする。		
班長会議／成長と 貢献（隼・富士）	(1)2 級スカウトとして 3 か月以上、隊および班活動に進んで参加した ことを班長会議で認めてもらう。	(1)2 級スカウトとして 3 か月以上、隊および班活動に進んで参加した ことを班長会議で認めてもらう。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により活動が出来なかった場合は、 スカウト技能全般を高める為に自ら進んで取り組んだことを班長会議で 認めてもらう。		

【**考査方法、考査基準に対する特別措置案 <菊章>**】

		菊スカウト章「模範」	考査基準に対する特別措置案	特別措置へのポイント
目標		自分の隊・班で積極的に活動でき、他のスカウトの良き模範として、班長や上級班長等、責任ある行動と指導ができる。		
基本		(1)「ちかい」と「おきて」の実践に努力して他のスカウトの模範となる。 (2)班長、次長（グリーンバー）、またはジュニアリーダーとして隊運営（6ヶ月以上）に携わる。 (3)B-Pのラストメッセージを読み、隊長とその内容について話しをする。 (4)外国のスカウトの「おきて」を調べる。できれば海外からのスカウト・指導者に直接教えてもらう。		
健康と発達		(1)5分間泳ぐか1,500mを走り、自己記録を更新できるように努力する。 (2)救急法 ①AED（自動体外式除細動器）について以下のことが説明できる。 ア)AEDとは何か イ)どういう時に使用するか ウ)使用の手順 ②タバコ、アルコール、薬物による人体に及ぼす害について知る。		
スカウト技能	技能章	(1)技能章から「野営章」「野外炊事章」「リーダーシップ章」を取得する。		※野営章の1.入団以来通算10泊以上のキャンプについては、通算10泊程度の経験や野営能力、個人の成長を隊長が判断し、認定しても良い。 ※野外炊事章については、野外での実施が困難な場合は、レポートの提出でも認定する。個別案件については、お近くのコミッショナーへご相談下さい。
	キャンピング	(2)班長、次長（グリーンバー）として班キャンプ、またはジュニアリーダーとして隊キャンプの計画を行い1泊以上の固定キャンプを実施し隊長に報告書を提出する。	(2)班長、次長（グリーンバー）として班キャンプ、またはジュニアリーダーとして隊キャンプの計画を行い1泊以上の固定キャンプを実施し隊長に報告書を提出する。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により野外活動の実施が不可能な場合は、隊長の協力を得てリモート集会やビデオ集会等を企画・計画し、実施、評価を行う。	※スカウトがジュニアリーダーや班長、次長としての意識を持ち、隊活動（隊の運営）に参画をさせる。
善行（初級）/ 奉仕		(1)団・地域で取り組んでいる奉仕活動に4日（1日1時間以上）以上参加する。	(1)団・地域で取り組んでいる奉仕活動に4日（1日1時間以上）以上参加する。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により奉仕活動の実施が不可能な場合は、SDGsの達成目標から1つ選び、目標達成の為に班でできる社会奉仕を考え、班員へ指導しながら取り組む。	※団・地域で取り組んでいる奉仕活動への参加を前提とする。
信仰奨励/信仰（隼・富士）		(1)信仰奨励章を取得する。		
班長会議/成長と貢献（隼・富士）		(1)1級スカウトとして4か月以上、隊および班活動に進んで参加したことを班長会議で認めてもらう。	(1)1級スカウトとして4か月以上、隊および班活動に進んで参加したことを班長会議で認めてもらう。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により活動が出来なかった場合は、他のスカウトの良き模範として、班長や上級班長等、責任ある行動と指導に向けて自ら進んで取り組んだことを班長会議で認めてもらう。	

【**考査方法、考査基準に対する特別措置案 <隼章>**】

	隼スカウト章「冒険と奉仕」	考査基準に対する特別措置案	特別措置へのポイント
目標	スカウト技能を役立てることができ、ジュニアリーダーとして基本的な隊運営の知識を有し、健全なる体と精神を身につける。		
基本	(1) 菊スカウトとして、最低 6 か月間「ちかい」と「おきて」の実践に最善をつくす。		
スカウト技能	キャンピング (1) 自分を含め 2 人以上のベンチャースカウトとともに、安全と衛生および環境に配慮した 2 泊 3 日以上移動キャンプ（歩行距離 20km または、自転車 100km 以上）を計画し、隊長の承認を得て実施、報告する。	(1) 自分を含め 2 人以上のベンチャースカウトとともに、安全と衛生および環境に配慮した 2 泊 3 日以上移動キャンプ（歩行距離 20km または、自転車 100km 以上）を計画し、隊長の承認を得て実施、報告する。  ただし、外出や活動の制限、自粛等により活動が出来なかった場合は、移動キャンプ実施に向けた取り組み（技能訓練）を実施し、報告する。	※実際に展開が出来なくても、計画は立てさせる。 ※実施に向けて事前訓練を積み重ねさせる。 ※実施が出来なくても、実施に向けた努力を重ねている事を認める。
	スカウト技能 (2) 次のスカウト技能のいずれかをボーイスカウト隊で指導する。 ① 計測 ② 通信 ③ ロープ結び	(2) 次のスカウト技能のいずれかをボーイスカウト隊で指導する。 ① 計測 ② 通信 ③ ロープ結び  ただし、外出や活動の制限、自粛等により活動が出来なかった場合は、いずれかのスカウト技能の「マニュアル」を冊子や動画等でオリジナル作成し、ボーイスカウト隊員へ配布する。	※自分のスキルを相手に伝える場合、どのような点に注意をするべきか？相手の立場に立って物事を考え、取り組む事が出来るよう支援する。
	技能章 (3) 技能章から「救急章」「パイオニアリング章」を取得する。	■ 救急章については、日本連盟の特別措置案は奈良県連盟では該当させない。 ■ パイオニアリング章については、日本連盟の特別措置案に準ずる。	※ボーイスカウト救急法講習会の受講及び救護係は必須とする。
スカウト精神	(1) 「スカウティング・フォア・ボーイズ」のキャンプファイア物語 21,22 および 26 を読み、内容について隊長と話し合う。		
善行（初級）/ 奉仕	(1) 他部門の活動へ 6 か月以上にわたり奉仕し、その実績を報告する。  (2) 社会的弱者（高齢者、障がい者等）への支援活動を積極的にを行い、活動記録を隊長に提出する。	(1) 他部門の活動へ 6 か月以上にわたり奉仕し、その実績を報告する。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により活動が出来なかった場合は、他部門の指導者の協力を得ながらリモート集会やビデオ集会等の企画、計画、実施、評価に携わり、その実績を報告する。  (2) 社会的弱者（高齢者、障がい者等）への支援活動を積極的に行い、活動記録を隊長に提出する。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により活動が出来なかった場合は、高齢者向けの防災、防犯、交通安全、悪徳商法未然防止等のチラシやリーフレット、動画等を作成し、配布（SNS へのアップ等）する。	※ジュニアリーダーとして活動にどう携わるか、ジュニアリーダーとして何が出来るのかを考えさせた上で取り組ませる。
信仰奨励/信仰（隼・富士）	(1) 自分の所属または興味を持った教宗派の歴史と教えを知る。 (2) 自分の所属または興味を持った教宗派の宗教行事について知る。		
班長会議/成長と貢献（隼・富士）	(1) チームプロジェクトのチーフまたは、主要な役割としてプロジェクトを計画、実施し、報告書を隊長に提出する。または、3 泊 4 日以上隊野営の実施計画を作成し、実際に隊野営の運営を行い、隊長に報告する。	(1) チームプロジェクトのチーフまたは、主要な役割としてプロジェクトを計画、実施し、報告書を隊長に提出する。または、3 泊 4 日以上隊野営の実施計画を作成し、実際に隊野営の運営を行い、隊長に報告する。  ただし、外出や活動の制限、自粛等により活動が出来ない場合は、集合・対面にならずにできる部分（事前訓練等）を実施し、報告書を提出すること。	

【**考査方法、考査基準に対する特別措置案 <富士章>**】

		富士スカウト章「リーダーシップ」	考査基準に対する特別措置案	特別措置へのポイント
目標		プロジェクトの計画・実施・報告ができ、奉仕の精神と社会の一員としての責任を持ち、社会貢献を果たせるリーダーとなる資質を身につける。		
基本		(1)単スカウトとして、最低6か月間「ちかい」と「おきて」の実践に最善をつくす。 (2)現在の自分の考えと将来の進路についてまとめ、その内容について指導者と話し合う。		
スカウト技能	技能章	(1)技能章から「野営管理章」「公民章」を取得し、技能章を合計15個以上取得する。		
	キャンピング	(2)自ら設定した課題により、2泊3日の単独キャンプ(固定または移動)を計画し、隊長の承認を受けた後、実施・評価を報告書にまとめ隊長へ提出する。	(2)自ら設定した課題により、2泊3日の単独キャンプ(固定または移動)を計画し、隊長の承認を受けた後、実施・評価を報告書にまとめ隊長へ提出する。 ただし、外出や活動の制限、自粛等により野外活動の実施が不可能な場合、後日必ず実施と報告書を提出することを約束し、実施までの間に、計画実行に向けて研鑽・努力する課題を設定し隊長に報告する。	※これまでの進級で積み重ねてきた成果を試すのに十分な課題設定を設け、また野営経験や活動で培ってきた知識・技能を活かし、安全（不測の事態への対処も含む）に単独行動して、課題を完遂できる内容の計画書であるかを考査の基準とする。 ※今後、段階的に制限や自粛すべき状況が緩和されることが想定されますが、長期にわたり感染防止の行動が必要となることが予測されます。よって、実施を前提する上で、ルートにおける訪問先については、出来る限り「三密」を避ける計画を立てるよう指導して下さい。 ※「計画実行に向けて研鑽・努力する設定」とは、課題に必要な知識の研鑽や移動野営に必要な技能・体力のためのトレーニングなど実行までに継続的な実践が可能なこと（過度な負担にならないよう、気持ちが継続するような目標になるよう指導して下さい。）
スカウト精神		(1)「スカウティング・フォア・ボーイズ」を読み、感想文を提出する。		
善行（初級）/奉仕		(1)地域社会や学校などでの奉仕活動を企画し、隊長の承認を得て実施して、報告する。 (2)地区、県連盟、日本連盟の行事等に奉仕し、その実績を報告する。  (3)奉仕の意義について理解し、自身が今後の人生においてどのように社会に対して奉仕貢献できるかを文章にまとめ隊長と話し合う。	(2)地区、県連盟、日本連盟の行事等に奉仕し、その実績を報告する。 ただし、当該行事の開催がない場合は、以下のうち一つを実行する。 ①隊長、コミッショナーの協力を得て、地区や県連盟または複数団による「集合・対面にならない行事」を企画し、実行委員または運営委員として奉仕し、その実績を報告する。 ②隊長、コミッショナーの協力を得て、地区や県連盟または複数団により「オンラインスカウトフォーラム」を企画し、実行委員または運営委員として奉仕し、その実績を報告する。	※地区、県連盟の枠組みに限らず、地域、友好団など複数の団をまたいだ行事でも構いません。 ※「集合・対面にならない行事」とは、家にいて参加出来る行事や直接会わずに行う行事を意味し、スカウトに創意工夫で企画して下さい。 必ずしもW E Bの活用は必要ありません。 (例：メンバー全員に手紙を送り、同時刻・同アクションをして何かの共有するイベント、W E Bを活用したオンラインイベントなど) ※計画・実施に際しては、すべてを当該スカウトにすべて任せけるのではなく、主体的に関わりながら実施できるよう、役割と権限を明確にして協力・支援して下さい。 ※W E Bの活用の際には、スカウトの環境、保護者の理解、S N Sのマナー、セーフ・フロム・ハーム等に十分な配慮をお願いします。
信仰奨励/信仰（単・富士）		(1)宗教章を取得するか、取得に対して努力したことを隊長に認めてもらう。	(1)宗教章を取得するか、取得に対して努力したことを隊長に認めてもらう。 ただし、宗派の開催する講習会が開催されない場合は、隊長の協力を得て、可能な限り教導職の方の指導・助言を受け、宗教・宗派の教えに対する理解を深めるとともに、信仰心を高めるための行いを一定期間実践し、レポートにまとめ隊長に提出する。	※レポートの内容は、各宗派宗教章の細目を参考にして、調べること（宗教・宗派の歴史や教え、礼式の作法など）、教えに基づいた実践の計画・実施・信仰心に基づいた今後の生き方など、まとめる項目を指導して下さい。 ※後日、宗派の開催する講習会が開催された際は、受講の上取得を目指す

【**考查方法、考查基準に対する特別措置案 <富士章>**】

	富士スカウト章「リーダーシップ」	考查基準に対する特別措置案	特別措置へのポイント
			ことを奨励する。
班長会議／成長と 貢献（隼・富士）	(1)隼スカウトになった後、自己の成長と社会に役立つための課題を設定して、個人プロジェクト(研究・製作・実験など)を自ら企画し、隊長の承認を得た上で少なくとも 1 か月以上にわたって実施・完結させ、企画書、計画書、および報告書を隊長に提出する。	(1)隼スカウトになった後、自己の成長と社会に役立つための課題を設定して、個人プロジェクト(研究・製作・実験など)を自ら企画し、隊長の承認を得た上で少なくとも 1 か月以上にわたって実施・完結させ、企画書、計画書、および報告書を隊長に提出する。 ただし、実施する内容が、野外での活動や複数人数が対面で実施しなければならないために実施が不可能なものは、後日必ず実施と報告書を提出することを約束し、実施までの間に、計画実行に向けて研鑽・努力する課題を設定し隊長に報告する。	※実施する内容について、スカウトの意思を尊重することを大前提として、可能な限り代替的な方法や課題へのアプローチの変更により、プロジェクトの目的・目標達成に向けて行動が起こせるよう、アドバイスや指導をしてください。

日本連盟「新型コロナウイルス対応における進歩に関する特別措置（案）」より